

行政調査報告書「未来型スマートまちづくり特別委員会」

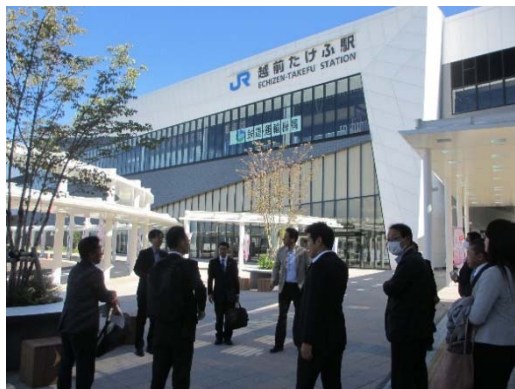
令和5年10月18日～20日

■福井県越前市 『新幹線新駅「越前たけふ」周辺でのまちづくりについて』

越前たけふ駅は、北陸新幹線金沢から敦賀間の延伸に伴い、新設駅として令和6年3月に開業する予定である。新駅周辺の賑わいを創出するために、道の駅「越前たけふ」が令和5年3月に駅舎隣にオープンした。

伝統文化や道の駅での食事提供、豊富なお土産品などが取り揃えられており、多くの観光客で賑わっていた。集客するための仕組みが考えられており、本市にも取り入れるべきと感じた。

新駅開業後、周辺の交流人口の変化やアクセス等の影響など、今後の動向に注視したい。



■広島県呉市 『呉駅周辺地域におけるスマートシティの推進について』



呉駅前の旧そごう呉店の跡地利用と、駅前広場の老朽化と機能低下の課題解決に向け、再開発をスタートさせた。駅前デッキやタワーマンション、複合型商業施設の建設など、市民が多く利用する施設が駅に接続する形であれば、多くの市民が利用することが期待でき、賑わい創出につながる。

人流を活性化することで、市中心部の回遊促進など、将来を見据え、駅周辺を歩きたくなるようなウォークブルなまちづくりに向けた手法は参考になった。

■山口県山口市 『山口市産業交流拠点施設について』

山口市産業交流拠点施設は、新山口駅北地区重点エリア整備として建設工事をスタートし、令和3年4月にオープンした。駅に直結した立地でアクセスがよく、駐車場も整備されており利用しやすい。本施設は産業と交流をキーワードにした多機能複合施設であり、メインホール、メグリバ、メデフィットラボ、アカデミーハウス、公的機関等オフィスからなる。



例えば、メインホールについては、豊富な実績と経験を持つ施設経営のプロが運営事業者となっており、稼働率が高く、メッセ・コンベンションも多く開催している。このように、個々の施設に合った運営体制とする手法は参考になった。